

## 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	山科 満		
NAME	Mitsru Yamashina		

## 1. 研究課題

（和文）東日本大震災で家屋を失った人の語りの変遷

（英文）The mental processes of survivors of the 2011 Japan Earthquake and Tsunami who lost their houses.

## 2. 研究期間

2年間（2017～2018年度）

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

背景：東日本大震災の心的状況についての調査研究は、横断的な調査がほとんどであり、時間経過を踏まえた研究は極めて乏しい。

目的：人間学的精神病理学の立場から東日本大震災被災者の心的状況の理解を試みる。震災から8年間の経過を踏まえた研究を行う。

研究計画：医学的支援を受けていない被災者を対象に、家庭訪問を繰り返し、語りの変遷を記録する。対象者は、筆者が震災発生以来ボランティアの支援者として関わっている人とした。

内容及び成果：特に語りが豊かであった2例に絞り、両者を対比する形で人間学的精神病理学の立場から記述し考察を加えた。1例目は津波で夫と家屋を失い、残された家族と共に新居を構えたが、一貫して元の家を再建したいという願望を抱きつづけていた。同時に心的外傷の症状を呈しており、自身の気持ちを周囲の人に「わからせてやりたい」という思いと「わかりっこない」という怒り・諦めの間を揺れ動き、共同体に参入することが困難なままであった。2例目は震災で家を失う遙か以前に過酷な出来事を体験しており、震災以降は「安心・安全」を指向する心性が際立ち、過去に拘泥することは全くなかった。前者は執着気質、後者は分裂気質の持ち主であり、同じコミュニティにありながら2人の心的状況と指向性は気質の特性を反映し全く異なっていた。この結果を、学会および専門誌で発表した。

（英文）

This study was conducted to attempt to understand the mental conditions of survivors of the 2011 earthquake and tsunami in Japan from the perspective of anthropological psychopathology. Parts of the narratives of two individuals who did not receive medical support in the seven years following the earthquake formed the basis of this investigation and are presented in chronological order.